



地域医会だより

県央皮膚科医の会

本会は、主に綾瀬・海老名・座間・大和の4市の皮膚科医を対象にした通常は講演会形式で行われている会です。平成22年度は、5月20日（木）に第6回目の会を海老名オークラフロンティアホテルで開くことができました。今回は演者として国立病院機構相模原病院の朝比奈昭彦先生に、「新しい乾癬治療の期待」というタイトルでご講演を頂きました。参加者は24名でした。生物学的製剤の性格・種類・その実用法に関して、医療費の実情も加えて具体的に分かりやすくお話しいただき、しっかり勉強することができました。

来年度の7回目は今のところ秋に計画する予定ですが、先日の東日本大震災やその後の計画停電などの問題もあるので、まだ詳細を決める状況にはありません。開催が可能となれば、できるだけ多くの先生方に参加してもらえよう実りある講演会を企画したいものと考えていますので、情報が届きましたら近隣の先生方も是非ご参加ください。

（文責：米元康蔵）



地域医会だより

横浜市皮膚科医会

平成22年度報告

毛利忍会長の下での横浜市皮膚科医会は2期目に入り益々活気に溢れた1年となりました。

1. 例会は恒例通り3回開催されました。

①第125回例会 平成22年4月3日（日） 出席者 60名

会 場：関内新井ホール 共催：インテンデイス（株）・バイエル（株）

特別講演：足立厚子先生、兵庫県加古川医療センター皮膚科

演 題：金属接触アレルギーと全身型金属アレルギー

特別講演はさまざまな金属アレルギーの症例供覧と食物中の微量金属、ニッケル、クロムなどの摂取による全身型金属アレルギーについて明快にお話し頂きました。新企画プログラムでは足のかゆみにユベラ、メチコパールが有効、オノンカプセル（ゼラチンを含む）は牛乳アレルギー患者へは禁忌などの薬のヒヤリハット、頭部に膿を有した診断困難な症例のお話も紹介されました。

②第126回例会 平成22年7月4日（日） 出席者129名

会 場：関内新井ホール 共催：鳥居薬品（株）

特別講演テーマは「ヒトの皮膚、動物の皮膚」

演 者：久保亮治先生 慶應義塾大学医学部皮膚科／総合医科学研究センター特別研究講師
堀 浩 先生 アジア産野生生物研究センター代表
岡部正隆先生 東京慈恵会医科大学解剖学教室教授

神奈川県皮膚科医会（第133回）と共催のため、ご講演に上記3先生をお招きしての特別な会となり最新機器による解析法や結果、未来に向かう話題と、充実した会となりました。

③第127回例会 平成22年10月21日（木） 出席者71名

会 場：ホテルキャメロットジャパン 共催：サノフィ・アベンティス（株）

特別講演：新井春枝先生 元大和市立病院皮膚科部長、聖路加国際病院皮膚科

演 題：エリテマトーデス

新井先生が経験なさった豊富な症例の中から丹念に臨床写真と病理所見をあわせまとめられた数多くのスライドが紹介・解説され有益な会でした。また、けいゆう病院の河原由恵先生、横浜市立大学病院の陳慧芝先生からの症例供覧も行われました。

浅井俊弥先生より、加水分解コムギ末を含有する医薬部外品によるアレルギーについての話題提供と「開業医の蕁麻疹診療～原因がわかる蕁麻疹はどれだけあるか」のお話を伺いました。

2. 例会以外の会の後援、主催

①横浜市皮膚科医会学術講演会 平成22年6月10日（土） 出席者45名

会 場：横浜エクセルホテル東急 共催：ノバルティスファーマ（株）

特別講演：加藤則人先生 京都府立医科大学皮膚科教授

演 題：アトピー性皮膚炎の治療、未来の展望

先生が実践されている実際の治療と最新の話題、特に皮膚の炎症反応の成立と深く関わっている血小板の役割とアトピーの関連、さらにアトピーの未来へ向けた明るい展望というお話で日常の診療にも大変参考になりました。

②第3回横浜皮膚免疫治療研究会 平成22年6月24日（木） 出席者26名

会 場：横浜エクセルホテル東急 共催：ノバルティスファーマ（株）

特別講演：小澤 明先生 東海大学医学部専門診療学系皮膚科学教授

演 題：「乾癬治療2010——これからの展望は？——」

講演に先立ち、浅井俊弥先生より「乾癬治療に関するアンケート結果」が報告されました。ご講演はステロイド、ビタミンD3誘導体などの外用療法、PUVA、ナローバンドUVBなどの光線療法、ビタミンA誘導体、免疫抑制剤などの内服療法、そして最新の生物学的製剤による治療のお話で、生物学的製剤も根本的な治療でなくあくまでも対症的治療法であることを強調されました。身近な話題と親近感に満ちた有益なお話でした。

③第15回ラテックスアレルギー研究会 平成22年7月11日（日）

会 場：横浜シンポジア 協賛：ポーラファルマ（株）

研究会会頭の池澤善郎先生からは、研究会としてはとても盛大で有益だったとのお話がありました。

なお、横浜市皮膚科医会から研究会に10万円の寄付を行いました。

④横浜市皮膚科医会主催市民公開講座 平成23年3月13日（日） 出席者65名

会 場：はまぎんホールヴィアマーレ 協賛：ポーラファルマ（株）

テ ー マ：ウソ？ホント？水虫の疑問と心配を解決！

3月11日の東北地方太平洋沖大地震の直後であり、対応する時間もない状態でしたが会場・協賛会社とも相談の上、開催しました。杉田泰之先生のお話は3人の回答者を置いた質問形式と

いうユニークなもので、この状態の中でお集まりいただいた市民の皆様にも大変好評でした。また、ポーラ化粧品他によるデジタルビデオカメラを利用した“リアルタイム メイクシミュレーションシステム”によるメイクアップアドバイスは参加者に大好評でした。なお、恒例の皮膚科専門医による皮膚の病気の相談は毛利忍先生、増田智栄子先生、高橋泰英先生、杉田泰之先生にご担当頂きました。また、鎌田英明先生、野村有子先生、川口博史先生と渡辺知雄が横浜市皮膚科医会として参加しました。なお当日急遽行った東北地方太平洋沖大地震への義援金は13,070円が集まり、後日、赤十字へ寄付しました。

3. 横浜市医師会の学術活動

●第18回横浜臨床学会学術集談会 会場 ホテルキャメロットジャパン

浅井俊弥先生 「湿布かぶれのピットファール」

●テレビ神奈川（TVK）への出演

平成22年6月4日、11日 巻き爪の治療 安藤形成外科皮膚科 安藤晋一郎

平成22年10月29日、11月5日 皮膚がん 宮本皮膚科 宮本秀明

（文責：渡辺知雄）



地域医会だより

鎌倉市皮膚科医会

現在活動を休止しています。

（文責：原 尚道）



地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

平成22年3月17日水曜：19：30～

ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南

講師：清 佳浩 先生（帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科学教室教授）

演題：「白癬～完治を目指して～」

平成22年7月14日水曜：19：30～

ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南

講師：朝比奈昭彦先生（独立行政法人国立病院機構相模原病院 皮膚科医長）

演題：「乾癬における生物学的製剤の応用」

平成22年11月17日水曜：19：30～

グランドホテル湘南

講師：小澤 明先生（東海大学医学部専門診療学系皮膚科学教授）

演題：「乾癬治療2010～これからの展開は？～」

（文責：小林誠一郎）



地域医会だより

川崎市皮膚科医会

第8回川崎市皮膚科医会定時総会・第12回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

平成22年10月6日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて第8回川崎市皮膚科医会定時総会・第12回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第5号議案まで円滑に承認され無事終了しました。体調不良のため辞任を表明された佐藤龍男先生に代わり望月明子先生が会長として承認されました。

講演会は清佳浩先生（帝京大学附属溝口病院皮膚科教授）の座長で照井正先生（日本大学医学部 皮膚科学分野教授）に「アトピー性皮膚炎診療における基本知識—アレルギー炎症と角層バリア機能異常の接点—」という演題でご講演いただきました。

アトピー性皮膚炎に関する新しい研究成果により、今まで疑問だった点が明らかになり、今後の展開が期待される興味深い講演でした。

その後の情報交換会は、照井先生のお人柄どおり和気藹々と楽しいひと時となりました。

（文責：川崎市皮膚科医会副会長 井上奈津彦）

○ ○ ○ ○ ○
地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

第42回三浦半島皮膚科懇話会
第25回横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会

日 時：平成23年2月5日（土）

場 所：メルキュールホテル横須賀 4階「ヴェルサイユ」

製品紹介：『アレジオン錠 最近の話題』 日本ベーリンガーインゲルハイム（株）

特別講演：『真菌症と関連疾患』

演 者：帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授 清 佳浩 先生

座 長：金丸皮膚科院長 金丸 哲山 先生

共 催：三浦半島皮膚科懇話会

横須賀市医師会皮膚科部会

横須賀市医師会

日本ベーリンガーインゲルハイム（株）

講演抄録

表在性真菌症の診断において、一番重要な方法は直接検鏡です。

その方法について検体の採取の仕方や注意点について示しました。

足白癬においては水疱、痂皮、輪状の鱗屑、病変部の辺縁から、眼科用鑷子やメスを用いて材料を採取する。爪を採取するときにはプラスチックニッパが便利です。

小児から採取するときには、透明な両面テープ、セロテープを用いると、恐怖感を感じさせないで材料が得られます。両面テープを用いると鱗屑が無くても角質細胞が採取できます。頭部では、毛髪（特に容易に抜去できるもの）も重要な検体です。

白癬の臨床症状について頭部白癬から体部、股部、足白癬と臨床症状を提示しました。白癬の原因菌の中で *Trichophyton tonsurans* による感染症は2000年頃よりレスリング競技者や柔道家の間で感染が拡大している浅在性真菌症で、現在、全国で2,000名程度が過去に感染したか現在罹患中といわれています。軽微な接触でも感染し、家族内感染の拡大が危惧されています。近年、年少者にその感染は拡大してきています。頭部の自覚症状を欠く症例が多く、その診断にはヘアブラシ法が必要です。治療の第一選択は抗真菌剤の内服療法です。

爪白癬の治療法の基本は内服抗真菌剤です。しかし、爪白癬以外の爪疾患には効果がありません。爪の扁平苔癬の治療例を提示しました。爪甲剥離が広範囲な症例や楔形の爪白癬では、歯科用グラインダーや彫金用ミニルーター、プラスチックニッパなどを用いた機械的爪甲除去やスピール膏による爪甲除去を併用しないとかなか完治しません。



イトラコナゾール、テルビナフィン、安全性に優れ、抗真菌活性がin vivoでも認められる等の特徴を有し、従来の薬剤に比べて優れた臨床的有用性を発揮します。おおよその治癒率は両剤とも約80%。

皮膚真菌症は皮膚科外来を受診する患者の10%以上に見られる頻度の高い疾患です。足白癬と爪白癬は、そのうち約95%を占めるため、これらの診断、治療の確立が重要です。

その診断と治療には直接検鏡が非常に重要であり、鱗屑の付いた病変を認めたときには、習慣として直接検鏡を行いましょう。外用薬は、おおむね90%程度の治癒効果がありますが、白癬、カンジダなど、菌種により薬剤感受性が異なるので治療に反応しない症例では、菌種を同定することも重要です。

癬菌は、Unnaが1887年に脂漏性皮膚炎を定義したときすでに、角層中に菌要素があることを記載しています。癬菌は、近年13菌種に再分類されました。どの菌種が多いのか、どこに多いのかなどについて研究され、癬の原因菌種はM. globosaであろうということが、いくつかの研究から明らかにされました。癬菌は、癬・マラセチア毛包炎・敗血症の原因菌ですが近年、イミダゾール系抗真菌剤が脂漏性皮膚炎に有効だとする報告が相次ぎ、最近では、本菌が脂漏性皮膚炎の発症に重要な役割を演じていると考えられています。脂漏性皮膚炎における主要菌はM. restrictaであるという研究結果が報告されております。



地域医会だより

小田原市皮膚科医会

1. 小田原医師会学術講演会

平成22年6月17日（木） 19：00より 報徳会館にて

「日常よく見る皮膚科疾患の最近の治療について」

（アトピー性皮膚炎、単純疱疹、帯状疱疹、尋常性痤瘡、乾癬ほか）

演者：小澤 明先生（東海大学医学部専門診療学系皮膚科教授）

座長：日下部芳志先生（日下部皮膚科医院）

共催：小田原医師会、グラクソスミスクライン株式会社

☆他科の先生方の参加も多く、分かりやすいお話で、皆さんに好評でした。

2. 小田原市皮膚科医会講演会

平成22年7月13日（火） 19：00より 報徳会館にて

「ニキビ治療におけるディフェリンの使用経験」

演者：栗原誠一先生（湘南皮膚科）

座長：日下部芳志先生（日下部皮膚科医院）

共催：ガルデルマ株式会社、塩野義製薬株式会社

☆栗原先生の提案でパネルディスカッション風に進めていただきました。先生の優しい人柄が伝わる良い会でありかつ有意義なひと時でありました。（文責：大林寛人）



地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

症例検討会

日時：平成22年6月15日（火）

場所：茅ヶ崎市立病院 皮膚科外来

講師：茅ヶ崎市立病院

皮膚科部長 掛水夏恵 先生

講演会

日時：平成22年9月10日（金）

場所：茅ヶ崎市勤労市民会館 3F B研修室

演題：「外来で役立つ薬疹の知識」

講師：横浜市立大学附属病院皮膚科教授

相原道子 先生



地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

第53回例会 テーマ「リンパ浮腫 最近の話題」～手術治療を中心に～

出席者：59名

日時：2010年5月26日（水）

場所：ホテルサンライフガーデン

司会：比嘉 功（湘南平塚クリニック）

1 アレグラ製品紹介（18：50～19：00） サノフィ・アベンティス（株）

2 症例報告（19：00～19：15）「菊皮膚炎の1例」木花 いづみ 先生（平塚市民病院）

【要旨】21歳、男性。花屋に就職して半年後から、顔面から頸部、手背から前腕にかけて、痒痒を伴う紅斑が出現、また乾性咳嗽も伴うようになった。菊を扱った後、症状の悪化を認めることから、菊によるアレルギー性接触皮膚炎および喘息様気管支炎を疑い、扱うことの多い生花でパッチテストを施行したところ、菊のみに陽性を示した。抗アレルギー剤および少量のPSL内服で症状軽快し、現在は抗アレルギー剤内服のみで経過良

好である。皮膚症状以外のアレルギー症状を伴うことのある本症について簡単にまとめた。

3 講演 (19:15~20:30) 彦坂 信 先生 (平塚市民病院 形成外科)

【要旨】リンパ浮腫は、長く「不治の病」として認識されていたが、現在はコントロール可能な疾患としてその治療法が確立されつつある。その病態は、リンパ管の吸収・輸送能力の低下により、高蛋白性の浮腫を生じ、更に易感染性により蜂窩織炎のリスクが高まるものである。治療法としては、生活指導、特殊なマッサージや圧迫などからなる複合的理学療法に加え、閉塞したリンパ管を開存している静脈に顕微鏡下に吻合する、リンパ管細静脈吻合術が、注目されつつある。

4 懇親会 (20:30~21:30)

共催：平塚市医師会皮膚科部会、サノフィ・アベンティス (株)

第54回例会 テーマ「皮膚アレルギーの世界」～食品や金属による多彩なアレルギー～

出席者：43名

日 時：2010年9月29日 (水)

場 所：平塚プレジール

司 会：福永 有希 (平塚共済病院)

1 ジルテック製品紹介 (19:00~19:15) グラクソ・スミスクライン (株)

2 特別講演 (19:15~20:15)

講師：相原 道子 先生 (横浜市立大学附属病院皮膚科教授)

【要旨】金属および食品によるアレルギーは、典型的な臨床所見や経過をとる場合には診断は比較的容易である。しかし、臨床所見から患者自身がそれらを原因として疑っていない場合には時として診断は困難である。本講演では、局所型および全身型金属アレルギーの多彩な臨床像と、遅発性食物アナフィラキシーおよび食品中のコチニール色素やキナ抽出物などによるアレルギー性について解説する。

3 臨床報告 (20:15~20:30)

宮本 秀明 先生 (宮本皮フ科院長) 「皮膚科診療所で5年間に経験した皮膚腫瘍」

4 懇親会 (20:30~21:30)

共催：平塚市医師会皮膚科部会、グラクソ・スミスクライン (株)

第55回例会 テーマ「膠原病、リウマチ疾患に伴う皮膚症状」～最近の話題を含めて～

出席者：24名

日 時：2011年1月26日 (水)

場 所：平塚プレジール

司 会：高橋 昇司 (たかはし皮膚科)

1 アレルギー性疾患治療剤 アレロック錠の最新情報 (19:00~19:15) 協和発酵キリン (株)

2 特別講演 (19:15~20:25)

講師：衛藤 光 先生 (聖路加国際病院皮膚科部長)

【要旨】 膠原病・リウマチ疾患に伴う皮膚症状は多彩である。本日はその中から知っておいて欲しい下記の30の皮膚症状につき解説した。1. 急性皮膚エリテマトーデス、2. 亜急性皮膚エリテマトーデス（環状紅斑）、3. 慢性皮膚エリテマトーデス（DLE&その亜型）、4. 慢性皮膚エリテマトーデス（深在性LE）、5. 慢性皮膚エリテマトーデス（LE tumidus）、6. 粘膜エリテマトーデス（DLE、口腔／鼻腔潰瘍）、7. 脱毛症、8. 網状皮斑、9. 凍瘡様紅斑、10. アクロチアノーゼ、11. レイノー症状、12. 手指の持続性の浮腫、13. 皮膚硬化、14. 肢端潰瘍、15. ヘリオトロープ疹、16. ゴットロン丘疹、17. 多形皮膚萎縮、18. 爪囲紅斑、19. メカニックスハンズ、20. 高ガンマグロブリン血症性紫斑、21. RAの特異的肉芽腫性病変、22. RAの非特異的皮膚症状（transparent skin・yellow skin）、23. RAの非特異的皮膚症状（胼胝・鶏眼・足潰瘍）、24. RAのうっ滞性潰瘍、25. RAの血管炎・循環障害、26. RAの好中球性皮疹（rheumatoid neutrophilic dermatitis）、27. RAに合併する皮膚症状（壊疽性膿皮症）、28. RAの黄色爪と爪の縦線、29. 尋常性乾癬&膿疱性乾癬、30. 乾癬の爪病変。

3 臨床報告（20：25～20：35）

「ヒドロキシクロロキンが奏効した播種性円板状紅斑性狼瘡」

木花 いづみ 先生（平塚市民病院皮膚科）

4 懇親会（20：35～21：30）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、協和発酵キリン（株）

（文責：福永有希）



地域医会だより

厚木市皮膚科医会

平成22年度事業報告

1) 第28回皮膚科医会 平成22年5月20日

「白癬の診断と治療～糖尿病との関係は？小児への感染は？」

帝京大学医学部附属溝口病院

皮膚科教授 清 佳浩 先生

2) 第29回皮膚科医会 平成22年11月18日

「皮膚科外用剤における基剤と剤形」

東京通信病院 薬剤部

副薬剤部長 大谷 道輝 先生

3) 医師会主催市民医療フェスティバル

「学校感染症」という主題のもとに自動スライド化して参加。

4) 厚木愛甲地区専門校医事業参加

講演は今年度はありませんでした。

FAX相談 1件あり、回答。

FAX相談別冊として「集団で注意しなければいけない皮膚の病気」刊行。

(文責：小幡秀一)



地域医会だより

丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

(山本 修)



地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

平成の大合併にて旧相模原市は城山町、津久井町、相模湖町、藤野町と一緒に、新相模原市は神奈川県3番目の政令指定都市となりました。人口72万人位です。それに伴い緑区、中央区、南区の3区に分区しました。中央区は東京の区と似てますし、他の2つは横浜市の区と似ていますので私はよく混乱します。診療所は新しい住居表示に書き直さなければならず、郵便番号も変わり、更に法人市民税も市と区に分けて払わなければならず、医療機関に良い事は1つも有りません。

相模原市医師会も津久井医師会と合併しました。旧津久井地区には皮膚科専門医が1名いらっしゃったと思いますが当会には入会されませんでした。またこの数年で相模原市緑区に皮膚科専門医が2軒御開業されましたが(入会手続きもとらないので)市医師会には入会せず、当然当会にも入会されません。相模原市皮膚泌尿器科医会はこの数年増減が有りません。現在20名会員がおります。また当会は相模原市医師会の傘下に有り、条件として市医師会会員でないと入れません。しかし、医師会に入会されても皮膚泌尿器科医会に入会なさらぬ皮膚科専門医が2名居られるのも事実です。診療科が皮膚科では市医師会に入るメリットも皮膚科医会に入るメリットも無いのですかね。

当会の講演会の記録

平成22年5月19日 尖圭コンジローマを中心としたSTI 診断と治療

講師：日本医科大学付属病院 准教授 三石 剛 先生

STDと思っていたら最近ではSTI(感染症という意味だそうな)との事(私の考えが古かった)。Tは

transmittedというのがtransmittableの方が良いと私（大木）は思っております。（註：transmittableは辞書に載っていません、和製英語です。辞書にはtransmissibleという正しい英語が記載されています。）

平成22年7月21日 ニキビ治療における患者指導の重要性

講師：実川皮膚科クリニック 院長 実川 久美子 先生

アダパレンゲルと光照射治療機器のコンビネーション治療。

平成22年9月15日 前立腺肥大症治療の現状と今後の期待

講師：帝京大学医学部附属溝口病院泌尿器科教授 石坂 和博 先生

新しい前立腺肥大症の薬はフィナステリドに近いような効果（？）が出るかも、また5 α 還元酵素受容体欠損症の人が居るとの事。

平成22年11月10日 痒疹の治療－アトピー性皮膚炎を中心として－

講師：国立病院機構相模原病院 白井 明 先生

アトピー性皮膚炎の治療は根気が必要です。

平成23年2月9日 アトピー性皮膚炎の治療

講師：九州大学皮膚科教授 古江 増隆 先生

IFTUの説明や皮膚のシワに沿って軟膏を塗布とか奥の深い事を再認識し、独りよがりな私の治療法に修正を与えました。

また北里大学皮膚科学教室の御厚意にて相模原皮膚科学セミナー、北里臨床皮膚フォーラム、神奈川臨床皮膚病理組織検討会などに参加させて頂きました。また田辺三菱製薬の主催にて平成22年11月2日に「乾癬の最新治療」を国立病院機構相模原病院朝比奈昭彦先生にレミケードの使用法を中心にお話を聞かせて頂きました。なお平成23年3月までは当会会長は 廣神和彦先生、会計学術 李尾泰洋先生、そして平成23年4月より新会長 栄枝隆成先生、会計学術 尾形万里子先生となりました。

（神奈川県皮膚科医会相模原選出幹事 大木 記す）

エピローグ：余談ですが相模原市皮膚泌尿器科医会に入会していてもこの2年間1回も会合に参加なされぬ専門医が数名居られます。専門医更新には地方の医会に参加を義務づけたら良いと思いますがどうでしょうか。

